

令和4年度 学力スタンダード指導計画・報告書

教科：(公民科)科目：(倫理) 対象：(第3 学年A組～F組)

科目担当者：

教科・科目の 指導目標	人格の形成に努める実践的意欲を高め、生きる主体としての自己の確立を促すために、現代社会の諸問題を生徒が自分自身の問題として根本から問いかけ、問い直す知的姿勢を身につけさせることを目標とする。
----------------	---

	高校入試等の分析結果・前年度の学力調査分析結果	分析結果を踏まえて検討した指導内容	指導体制の確立
年度当初	当該学年である3年生の入学試験における倫理的素養に関する分析資料はない。人間の「生き方、あり方」を思想史を踏まえて学び、理論的に人間や自己について考え方を深めるのは初めての経験である。また、生徒一人一人はこれまでの生活や学びの中でそれぞれの経験を通して、「生き方、あり方」について漠然とした考えを持ってはいるが、自己や他者という具体的な人間を踏まえながらも、筋道を立てて考えを深める手立ては十分に身につけているとはいえない。	教科書に記してある事項を、単に覚えさせるのではなく、一人一人の哲学者・思想家がどのような時代背景の中で、どのような発想を持つことで、直面する問いに答えたのか理解し、自らの問題として捉えなおすことができるよう、分かりやすい資料や身近に感じることができる資料を提示する。分かりやすい資料を通して、人間に共通する「生き方、あり方」について自らの考えを深めるとともに、理論的に問題を追及し、他者との相互理解できる能力を育てる。	頻繁に生徒に発問し、たとえ口ごもる生徒がいても問いをやめない。答えが完結するまで問いを止めない。また定期考査でも、知識を問う問題ばかりでなく、生徒自身の見解を表明しなければならないような問題を用意する。

	生徒の変容	生徒の学力の定着状況	次年度に向けた指導体制の改善
年度末			